

# 第一回 重症者ホームひさやま 地域連携推進会議 記録

日時:2025(令和7)年2月18日(火)10:30~11:30

会場:重症者ホームひさやま リビング

出席者:8名

欠席者:1名

(構成委員9名:利用者及びその家族、地域住民代表者、共同生活援助経営者、市町村の担当者)

陣内晶子(重症者ホームひさやま・療育課長・サビ管)、金子政彦(重症者ホームひさやま・施設長)

(敬称略)

## 【目的】

- 利用者と地域との関係作り
- 地域の方々への施設や利用者に関する理解の促進
- サービスの透明性・質の確保
- 利用者の権利擁護

## 【プログラム・質疑応答】

時間	プログラム	資料	説明	参加者からのご意見
10:00	受付			
10:30	挨拶		金子	
10:35~	目的		金子	
10:40~	構成委員紹介	別紙	金子	
10:45~	事業所紹介	パンフレット	金子	
10:50~ 11:05	利用者の生活	スライド	陣内	(委員)「夜勤緊急時の体制は？」 (陣内)「体調不良時は、あらかじめの指示に従って対応する。判断が難しい場合は、看護オンコールに連絡する。場合によっては、救急車を要請する。」 (委員)「スライド説明で、入居者の生活がよく分かった。」 (委員)「スライドの風景は、身近に感じた。 地域行事への参加に関して、(ホーム入居者への)行政区からの協力がより充実できないかは検討課題。移動サポートに関しては、ホーム職員とボランティアの役割分担が必要。行事の内容も変化しており、夜の行事も企画されているが、ホームの時間帯と合わないこともあるかもしれない。」

11:05~	経営状況	別紙	金子	(委員)「土地の所有はどうなっているか？」 (金子)「ホームが建っている土地は、法人所有である。久山療育園本体部の土地は、久原財産区からの借地で、借地料を支払っている。」 (委員)「ホームの収入に、自己負担分の金額も含まれているか？」 (金子)「含まれている。」
11:10~	事故報告	別紙	陣内	(委員)「事故報告の上げ方は？」 (陣内)「インシデントクリップというシステムを使って、職員がパソコン入力して、報告を上げている。」
11:15~	参加者より		金子 陣内	(委員)「強度行動障害の方々は、重症者ホームひさやまには、いらっしゃるか？」 (陣内)「いらっしゃらない。」 (委員)「重症者ホームひさやまでは、生活状況はLINE、メール等で速やかに発信してもらっている。家族の安心材料になる。他のグループホームでは、保護者への連絡はどのような形をとっているか？」 (委員:グループホームA)「金・土・日は自宅に帰省されている。その際に、必要事項はお伝えできる。お知らせを配布している。」 (委員:グループホームB)「2週に1回は外泊される方が多い。保護者グループLINEを使っている。」 (委員:グループホームC)「帰省される人は少ない。家族と疎遠な方々もいる。おたよりを毎月送付している。」 (委員)「親も高齢化して、できることがだんだん限られてくる。親の思いとしては、きょうだい児には、負担をかけたくないという気持ちがある。」 (委員)「家族で抱え込んでしまい、福祉サービスの利用につながりにくい方々もいらっしゃる。福祉サービスを十分に活用し、よりよく生活して頂けるように願っている。」
11:30	終了後見学		陣内 金子	

## 【次回日程】

- 次回、第二回 地域連携推進会議
- 2025年6月17日(火)10:30~11:30
- 重症者ホームひさやまにて

記録:金子政彦